

事業の背景・目的

久米島は、キクザトサワヘビやクメジマボタルなどの希少野生生物が生息・生育しており、豊かな生物多様性を有している。しかし近年、野生動植物の過剰な採集、密猟・盗掘等により、生息数の減少が危惧され、希少種の捕食が懸念されているネコも山中に生息している。そこで、本年度から、島内のパトロールを行い、実態を把握し、防止ための保全対策を目的とした巡視業務と、サワヘビの生息地保護区の拡張等の保護施策を検討することを目的とした生息環境等調査業務も実施している。過去にはキクザトサワヘビの傷病個体の一時収容等、国内希少種・天然記念物を含む在来種の飼育展示や傷病個体・外来種の受け入れを久米島ホテル館で実施している。

事業の内容

キクザトサワヘビの飼育環境の整備を実施し、個体の飼育体制を確保する。

事業① 仕切り壁の設置や監視カメラ等の防犯用設備設置事業

密猟が懸念されている種であることを鑑み、盗難対策として、本種の飼育部屋を仕切り壁で独立させ、施錠可能な構造に簡易的に改修する。

事業② 逸走防止用の二重水槽設置事業

飼育個体のケージからの逸走や、逸走に伴う個体の滅失を防止するために、飼育に用いる水槽を二重にする等の工夫を行う。

事業③ 水温及び室温、水環境の調整設備設置事業

飼育部屋へのエアコンやアクアリウム用クーラーの新規導入や、飼育水を清潔に保つためのアクアリウム用濾過フィルターを導入する。

得られた成果

キクザトサワヘビの試験飼育のための仕切り壁や監視カメラ、窓の格子の設置等の防犯用設備、逃走防止のための二重水槽や水環境の調整できる飼育環境の設置を3月中旬までに終了した。3月22日に久米島ホテル館周辺の崖線湧水道路側溝周辺で捕獲されたサワヘビ2個体が、環境省から提供された。今後、カエルの幼生、カニ・エビ類などの幼体等を飼育しながら、餌として与え、水温は28度以下に保ち、週に一度水替えを行いながら飼育環境を整える予定である。野外では得られないサワヘビの生態情報の蓄積に加え、本種の生体展示の手法も検討したい。久米島の地域住民や地元の観光・産業関係者に対して、生きている個体を直接観察する機会を提供することは、誤解されやすいサワヘビについての普及啓発に繋がり、地域主体による本種の保全の気運を高めることも期待される。事業終了後は、自主財源や別途外部資金等も活用しながら、関係法令を遵守し継続的に試験飼育研究及び生体展示を継続する考えである。